

報道関係者各位

2022年10月18日
一般社団法人クリエイティブクラスター
地域回遊型アート展「ひのはらアート 2022」運営事務局
公式サイト <https://hinohara.pro/>

TOKYO の源流「山郷」と最新の「現代アート」が交響！紅葉と共に散策しアートを感じるプロジェクト 大規模地域回遊型アート展「ひのはらアート 2022～生活藝術とむらのよさ」 ～10/22～11/23、東京都檜原村(ひのはらむら)+あきる野市+秋川渓谷がアートキャニオンに～

一般社団法人クリエイティブクラスターはこのたび、東京都の源流域にあたる檜原村を中心とした秋川渓谷流域を会場（檜原村4会場・あきる野市1会場）とした地域回遊型アート展「ひのはらアート 2022～生活藝術とむらのよさ（Hinohara Art 2022, Living art in a village of Tokyo）」を2022年10月22日（土）より約一ヶ月間開催いたします。開催に向け、参加アーティストや作品情報、開催会場の魅力をご紹介した公式サイトも公開いたします。

<なぜ檜原？TOKYO の村？>

世界的に大きな変化が起こる中、私たちの暮らしや価値観にも大きな変化が起こっています。

そういった中、自然を維持し新たな生活様式や地域づくり、持続可能な社会育成への取り組みが進められ、山間部やその周辺地域、離島などでの新たなクリエイティブ活動や暮らし方、働き方も生まれはじめています。東京都でありながら日本の原風景を残す「山郷」、TOKYO の村・檜原村を源流として多くのファンを持つ秋川渓谷エリア（同村・あきる野市）もそういった新たな取り組みが進むエリアのひとつです。村に拠点を移し、新しいビジネスと生活を始めるひと、作家活動の拠点とするアーティストも増えつつあります。



この度の檜原村でのアートイベントプロジェクトはこういった社会育成とアートの可能性を融合した「生活藝術」を体感いただくイベントとして、国内外で合計17名の才能溢れるアーティスト作品をご覧いただくだけでなく、山郷の原風景や自然と作品の融合体験、ここで過ごす時間とともに包まれる環境を五感で感じ、新しい「いいこと、いいもの」を見つけていただける場として展開しています。

檜原村を源流として五日市（あきる野市）まで貫く秋川渓谷は、TOKYO 屈指の紅葉スポットとしても人気があり、開催期間となる10月下旬から11月にかけて見事に山々が色づきます。

たとえば、会場となる檜原村人里（へんぼり）では、秋の紅葉を含め色とりどりの山の美しさを百年単位で構想する住民による植林運動が実を結び始め、素晴らしい景観を大きな古民家の会場とともに親しむことができます。

沿道からの眺めのいいカフェや地元食材のお食事処、ハイキング、溪流釣り（禁漁期ですが、ビギナー

でも子どもでもカンタンにマスを釣ることができる管理釣り場で楽しめます)、都内屈指の泉質の良さ
で知られる流域の温泉群など、多彩な山の体験とともにお楽しみいただけます。

<観光公式サイト>

檜原村観光 <https://hinohara-kankou.jp/>

秋川渓谷（あきる野市）<https://www.akirunokanko.com/>

<見どころ：「ひのはらアート2022～生活藝術とむらのよさ」3つのいい体験>

秋川の源流「ひのはらむら」はなんか「いい」らしい。

そんな「むらのよさ」が、アートが展開することにより、秋の紅葉とともに解像度を高め響きあう。

そして、像を結んだ、3つの「いい」。

その1 いいアートと出会う：山郷に溶け込むアートに触れる

TOKYOの「むら」である檜原村を源流とする秋川は、多摩川となり、世田谷を経て羽田へと東京を貫
きます。その源流の自然と中世まで遡れる村の風土と交響する作品を古くからある屋敷等で展開、山郷
を見立てに多彩な鑑賞体験が得られます。

テクノロジーアートのR&D（研究開発）フィールドを体感いただける展示スペースでは、「第25回文
化庁メディア芸術祭」アート部門大賞作家である、「anno lab（あのラボ）」による会場では展示が不可
能だった自然現象を取り入れたメディアアートの世界を体験。水滴が光を奏でるテクノロジー作品など
を展示。



（anno lab x RYOICHI KUROKAWA 「float」 「樋里コミュニティセン
ター」会場にて展示） anno lab (<https://annolab.com/>)

また、デジタルアート集団チームラボが発信する、まるで秘仏のよ
うに古民家に鎮座する作品など、自然とテクノロジーが幽玄に溶け
込込んだ展示、山の恵みから生まれる彫刻やインスタレーションな
ど、自然と風土に変幻に溶け込むアートを紅葉の秋川渓谷を巡りながら楽しんでいただけます。

（チームラボ「生命は生命の力で生きているII」 「アーツキャンプひのはら会場」にて展示）
チームラボ (<https://www.teamlab.art/>)



その2 いい感性にふれる：「生活藝術」が広げる可能性に触れる

現代アートがあらゆるかたちで注目される現在、それを担うアーティストたちは常に生活の中から着目を得てさまざまなマテリアルで創造を営んでいます。また中世にまで遡れる秋川流域の人々の営み、たとえば木を植え育むといった持続的継続からうまれる諸象もまた創造的なものということができます。山郷で持続的に積み重ねられていく「創造」とアーティストによる「創造」が結びつくことにより、新たな営み「生活藝術」が生まれ、持続的創造と文明のサイクルが少しずつ動いていくと考えています。

本展では、サイバーパンク彫刻家・スペースアーティストの中谷健一が現地の木を用いて作り出した、深き森の息吹を伝える作品、沖縄県八重山諸島の営みを版画とし、南国のアイコンとなり注目される作家、池城安武が舞台を変えて、檜原村源流の風土にインスパイヤされた作品などを展開します。



(左：中谷健一「グリッジたぬき」 「アーツキャンプひのはら」会場にて展示)

(右：池城安武「hinohara stripe」 「ヴィレッジひのはら」会場にて展示)

その3 いい環境を実感する：TOKYOの源流の体験価値を高める

会場では、作品鑑賞だけでなく「生活藝術」を反映した、TOKYOの源流ならではの「体験」を提供するプログラムも展開します。

立体プラバンアートの第一人者として知られ、日常のなかのさまざまな素材を誰もがたのしめるクリエイティブへ昇華させていることで常に満員人気のワークショップを主催するデザイナーでもある NanaAkua (ナナアクヤ) は、本「ひのはらアート」から開発した森の仕事で生まれたゴミ (おがくず) をアップサイクルして「ひのはらの木のねんど」として昇華させた作品をつくるともに、誰もがたのしめる新しい森の恵みの贈り物をつくりました。



(NanaAkua (ナナアクヤ) 「くさびらたちの森」 「へんぼり」会場にて展示)

ナナアクヤ <https://www.nanabo.jp/>

また、実際に「ひのはらの木のねんど」を使って、きのこなど「森の造型」を創作体験できるワークショップも開催します。下記ワークショップ情報に詳細記載。

このほか、檜原村在住の20歳代の現代美術家、菅谷杏樹氏は、秋川流域の恵みを発酵させその成果を作品として振るまい（「アーツキャンプひのはら会場」にて展示）ます。

「生活芸術」から生まれた作品を販売するマーケット「POP-UP TOKYO」が誕生するなど、芸術と風土、自然から生まれるTOKYOの源流の恵みをもとにした新たな体験と価値・取り組みを提案、展示ご紹介いたします。

<アートは秋川渓谷の新たな特産品になるか？「POP-UP TOKYO」開店！>

「ひのはらアート2022」に参加した作家たちが「むらのよさ」に触発された、新たなアートやプロダクトを生み出しました。手に取ることができて購入できるクリエイティブ作品をご体験いただけます。

〔販売予定商品（一部例）〕

- ・ 沖縄の風土に反映したポップな作品で多くの人々が求めたがる池城安武による、檜原の風土にインスパイヤされた作品やアパレル商品
- ・ 彫刻を通じて感性に歪みを与える中谷健一による彫刻やインテリア雑貨など
- ・ ナナアクヤが「山のしごと」のアップサイクルで生み出した「ひのはらの木のねんど」

〔展示販売会場〕 ヴィレッジひのはら

<触れる・つくる・交流する多彩なプログラム（前半）>

ワークショップ：「ひのはらの木のねんど」で森をつくろう

出展作家であるとともに人気のワークショップデザイナーでもあるナナアクヤが「ひのはらアート」から開発した森の仕事で生まれた「おがくず」をねんどにして、きのこなど「森の造型」をつくるワークショップ。こどもでもおとなでも、ぐいぐいつくれてしまうふしぎな森のねんど。ねんどづくりから細工の創作まで、森の香りを楽しみながら体験いただけます。

〔講師〕 NanaAkua（ナナアクヤ）

〔開催日時（前半）〕 10月22日（土）・23日（日）・29日（土）・11月3日（木・祝）12:00-13:30
14:30-16:00

〔場所〕 へんぼり会場

〔参加費〕 2500円（「ひのはらアート」パスポートチケット込）※チケットお持ちの方は1500円

作品レクチャー：anno labとメディアアート作品「float」をみよう！

第25回文化庁メディア芸術祭アート部門大賞受賞で今年を沸かせたanno lab（あのラボ）。独自の装置による大掛かりな作品で現地に行かないと観ることができないということで知られ、九州を活動の拠点にすることから、なかなか首都圏で作品に触れることが難しい彼らが、さまざまな場所で展開するため新たに制作したのが本展示の「float」。anno lab独自の自然現象をメディア化することで感覚を揺り動かすこの作品について、藤岡代表自らが展示会場にて解説する貴重な機会です。

〔話す人〕 藤岡定（anno lab）

〔開催日時〕 10月22日（土）13:30-14:30

[場所] 樋里コミュニティセンター「float」展示会場

[参加費] 本展チケットをお持ちの方は無料

※チケットはアーツキャンプひのはら（至近会場）等にて事前にお買い求め・引き換え

<プログラムトーク：TOKYOの源流・アートの可能性>

秋川渓谷流域でははじめての広域展となる「ひのはらアート 2022」、アートがひらく TOKYO の源流の可能性を、将来が期待できる作家2人どちらもが檜原を題材にした作品となった「オープンコール」の審査員とともに、語り合います。

[話す人] 四方幸子（キュレーター）・武居利史（美術評論家+アートエドゥケーター+前府中市美術館学芸員）・岡田智博（「ひのはらアート 2022」ディレクター）

[開催日時] 11月5日（土）14:30-16:00

[場所] へんぼり会場

[参加費] 本展チケットお持ちの方が参加出来ます

後期にもさまざまなプログラムを企画しています。

公式サイト (<https://hinohara.pro/>) および SNS で順次情報を発信いたします。

<作家・作品リスト一覧・会場：合計 13 組作家 17 組作品>

- ・ anno lab x 黒川良一（メディアアート）作品名：「float」会場：樋里コミュニティセンター
- ・ 石塚隆則（彫刻）①作品名：「檜原村動物民話考」会場：アーツキャンプひのはら ②「Fallen angels」会場：へんぼり会場
- ・ 三塚新司（インスタレーション）作品名：「Slapstick」会場：戸倉しるやまテラス
- ・ 池城安武（版画+ファッション・八重山）作品名：「ヤマメ」「hinohara stripe」会場：ヴィレッジひのはら
- ・ 中谷健一（彫刻）作品名：「新作」「グリッジたぬき」ほか 会場：アーツキャンプひのはら
- ・ 森山泰地（インスタレーション）作品名：「scent of weed」会場：アーツキャンプひのはら
- ・ NanaAkua（工芸・ワークショップデザイン）作品名：「くさびらたちの森」会場：へんぼり会場
- ・ 林智彦（ロボット）作品名：「nubot」会場：アーツキャンプひのはら
- ・ 仲本拓史（映像）作品名：「五助と六左右衛門」会場：へんぼり会場
- ・ 菅谷杏樹（インスタレーション・檜原村）作品名：「新作」（秋川の渓谷で育んだみつばちのはちみつを発酵させ神秘のはちみつ酒 ※1%未満）会場：アーツキャンプひのはら
- ・ チームラボ（デジタルアート）作品名：「生命は生命の力で生きている II」会場：アーツキャンプひのはら

オープンコール入選展示

- ・ 遠藤麻衣（映像・NY）作品名：「蛇に似る3：川」会場：へんぼり会場
- ・ 早坂葉（インスタレーション・秋田）作品名：「裸足可能域〈檜原村〉」会場：へんぼり会場

出展作家を公募・支援する「オープンコール」の実施

招待作家やプロジェクトのほか、出展公募「オープンコール」によるアーティストへの展示参加応募も実施しています。ここで選ばれた展示を通じて、これからの作家たちを応援する場として提供します。

審査員：四方幸子 キュレーター／武居利史 美術評論家・アートエディター・前府中市美術館学芸員／岡田智博 「ひのはらアート2022」ディレクター

受賞作品：

- ・遠藤麻衣（映像・NY） 作品名：「蛇に似る3：川」 会場：へんぼり会場
= 檜原村の溪流で、蛇の化身と現代人がエンカウトする映像作品。
- ・早坂葉（インスタレーション・秋田） 作品名：「裸足可能域〈檜原村〉」 会場：へんぼり会場
= 裸足で作家自身が村内の山河を歩き、その到達可能地をグラフィック化するプロジェクト型作品。

<実施概要>

名称：ひのはらアート 2022～生活藝術とむらのよさ（Hinohara Art 2022, Living art in a village of Tokyo）

会期：2022年10月22日（土）～11月23日（水・祝）※月・火休 10:30-16:30

会場：檜原村内にある複数の特設会場を中心に開催

アーツキャンプひのはら（本部会場：樋里地区）檜原村 4258／へんぼり会場 檜原村 1616

ヴィレッジひのはら 檜原村 790-2 笹平サテライトオフィス

樋里コミュニティセンター 檜原村 4331／戸倉しるやまテラス あきる野市戸倉 325

料金：【全会場回遊パス】1,000円（中学生以下無料）

主催：一般社団法人クリエイティブクラスター（キュレーター／ディレクター 岡田智博）

後援：檜原村・あきる野市教育委員会 ※文化庁「ARTS for the future! 2」補助対象事業

協力：ひのはらアートプロジェクト | 西東京バス五日市営業所 | 株式会社 anova design | 株式会社東京チ
ェンソーズ | ヴィレッジひのはら | NPO 法人にしたま | へんぼり堂 | アルフェイズ株式会社

公式サイト：<https://hinohara.pro/>

